

ELVの導入が大学ラグビーの試合に及ぼした影響について

On the Effect of ELV in the Rugby Match at University

1K06B217

指導教員 主査 間野義之先生

村木 俊貴

副査 寒川恒夫先生

【研究背景】

2008年5月1日、アイルランド、ダブリンにてIRBの理事会が行われた。このIRB理事会において実験的競技規則に関する話し合いが行われ、ELVの導入が決定した。今回のELVのようなルール改訂は他の競技ではめずらしいと思われるがラグビーという競技においては決して珍しいことではなく、ラグビーという競技においてルール改訂とは欠かすことのできないものであり、さまざまなルール改訂を経て現在のラグビーに至っている。そしてその都度プレーにも大きな影響を与えている。よって今回、導入、実施が決定したELVもプレーに何らかの影響を与えた可能性が高いと考えられる。

【研究目的】

本研究では自分が実際にプレーする大学レベルにおけるELVの影響をELV導入前の2007シーズンとELV導入後の2008シーズンについて総得点、キック、スクラム、ラインアウト、ラインアウトモール、ラック、ペナルティーゴール、カウンターについて統計的に比較することで、実際の変化を明らかにし、大学レベルにおけるELV導入が試合、そしてプレーに与えた影響について明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

本研究では研究対象を大学選手権のELV導入前の2007シーズンと導入後の2008シーズンの全30試合とした。これらの試合についてELV導入によって変化が考えられるキック、スクラム、ラインアウト、ラインアウトモール、ラック、ペナルティーゴール、カウンター、総得点の8

項目について調査、分析を行った。分析にあたってはSPSS 17.0 for Windowsを使用し、独立したサンプルのt検定を行い、有意水準を $P < 0.05$ とした。

【結果】

ラインアウト数、ラインアウトモール数、カウンター数、ペナルティーゴールの4項目においてELV導入前とELV導入後で5%水準での有意な差がみられた。それぞれについてみるとラインアウトは76本、ラインアウトモールは62本減少し、カウンター数は80回、ペナルティーゴールは19回増加した結果となった。

【考察】

ELV導入によってキックの種類が変化したこと、ラインアウト減少という結果になったと考えられる。またこのことからカウンターはノータッチキックの蹴り合いが続き、その中でカウンターに移行するという攻撃パターンが確立されたことで増加した結果となったと考えられる。モールの引き倒しが可能となったことでラインアウトモールが有効な攻撃オプションでなくなり、ラインアウトモール数の減少という結果につながったと考えられる。またスクラムに関してはスクラムからのセットATの難易度に変化はなく、ペナルティーからもスクラムを選択するチームが増加したことから、スクラムの数に有意な差はみられない結果となったと考えられる。ペナルティーゴールは得点を狙う攻撃パターンがゴール前のペナルティーではなくペナルティーゴールを狙うというパターンに変化したこと増加した結果となったと考

えられる。

【結論】

本研究ではELV 導入による大学レベルでの変化について以下の2点を結論とする。1.ELV 導入によって敵陣でのペナルティーではペナルティーゴールを選択することが増加し、得点パターンが変化した。2.両チームによる蹴り合いが続き、試合がノータッチキックの蹴り合いというキック合戦化した傾向が強まった。